

情報社会における 教科「情報」の在り方

茨城県立波崎高等学校

茂木 孝允

■ 参考文献及びWebサイト

文献

- ・ 下田博次著『ケータイ・リテラシー』NTT出版、2004
- ・ 久保田裕著『情報モラル宣言』ダイヤモンド社、2006
- ・ クリフォード・ストール著、倉骨彰訳『コンピュータが子ども達をダメにする』草思社、2001
- ・ フランク・ウェブスター著、田畑暁生訳『情報社会を読む』青土社、2001
- ・ 田畑暁生編『情報社会を知るクリティカル・ワーズ』フィルムアート社、2004

Webサイト

- ・ 「ねちずん村」
<http://www.netizenv.org/top.htm>
- ・ 「学校裏サイトで、今何が行われているのか」
<http://arena.nikkeibp.co.jp/article/col/20070424/121743/>
- ・ 「デジタル表現研究会」
<http://www.d-project.jp/main.html>

■現状

- ・ インターネット、携帯電話の普及



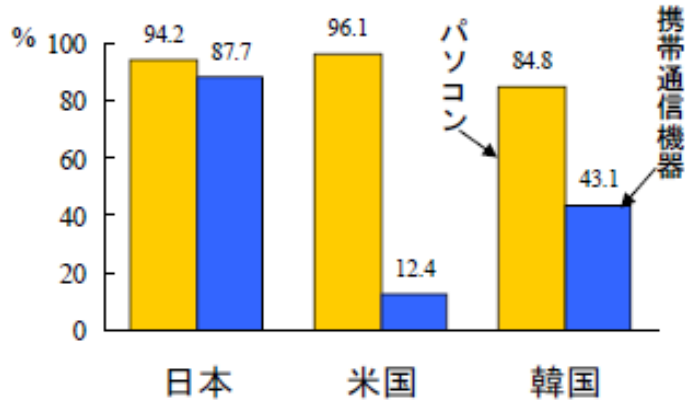
- ・ 親や教師の監視外のチャンネルの形成
- ・ 対面によるコミュニケーションの悪化
- ・ 金銭、勉強時間等の損失
- ・ 有害情報の取得 etc..



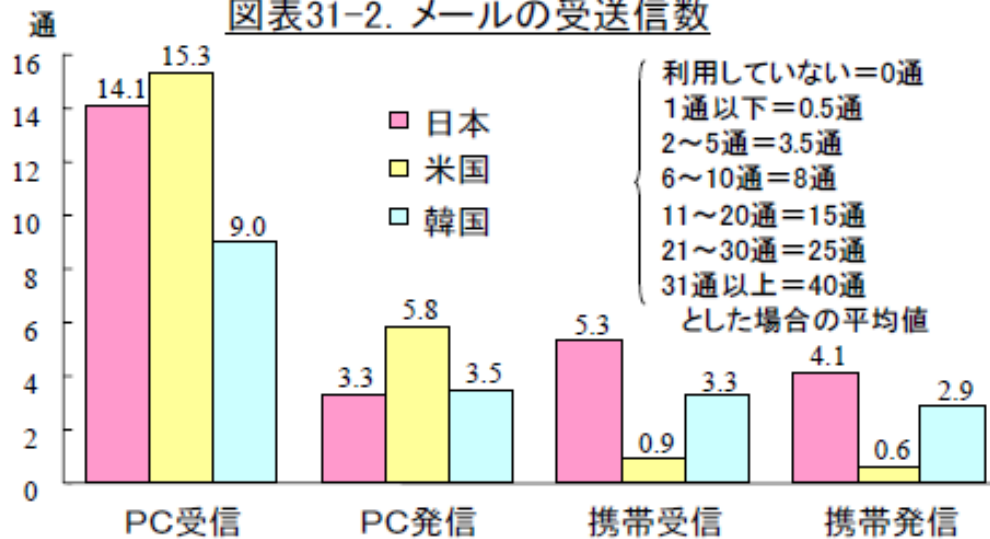
- ・ 援助交際、恐喝、暴行、イジメ、集団自殺、誹謗中傷、薬物売買、爆発物製造等の発生

◆日米韓の携帯電話使用状況

図表31-1. 電子メール利用率

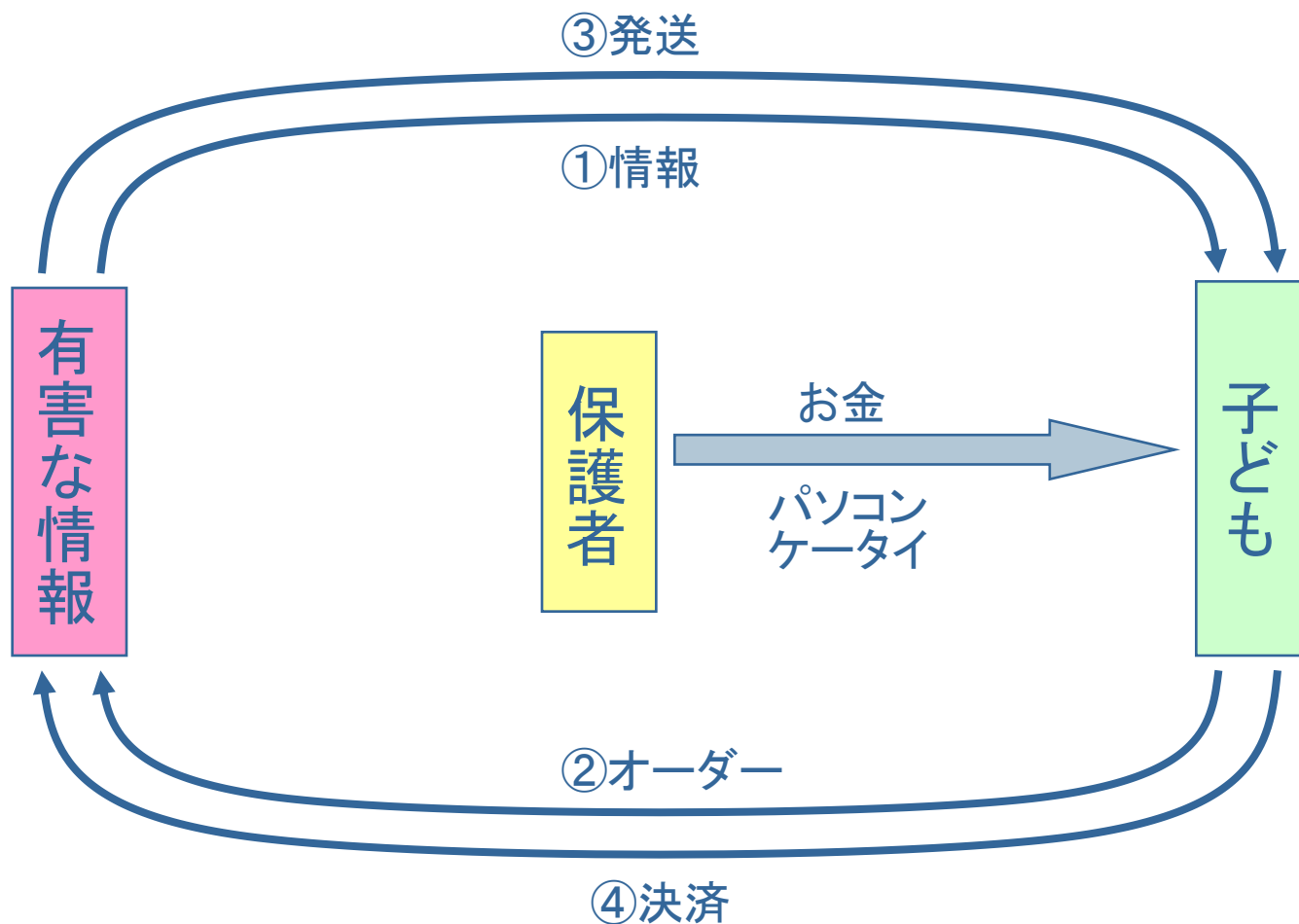


図表31-2. メールの受送信数



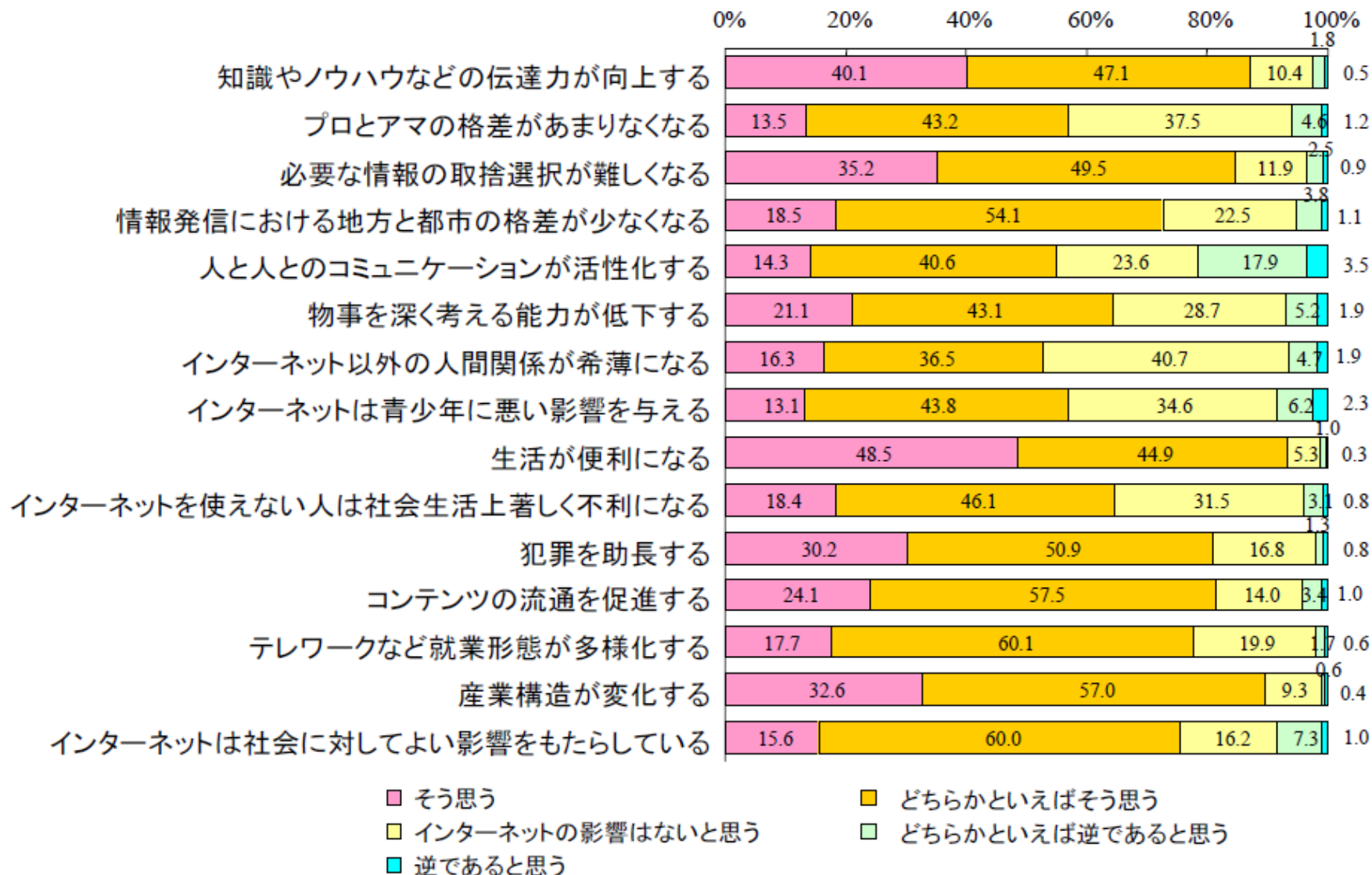
出所:総務省
「ネットワークと
国民生活に関
する調査(平成
17年)」

◆ケータイ・インターネットによる迂回チャンネルの形成



参考: 下田博次先生の講義より

◆インターネットが社会にもたらす影響



出所：総務省「ネットワークと国民生活に関する調査（平成17年）」

◆インターネット利用による生活時間・行動頻度の変化

睡眠時間	度数	%
増加した	48	2.3
変わらない	1,085	52.2
減少した	946	45.5
家族と対面で話す時間		
増加した	68	3.3
変わらない	1,556	74.8
減少した	455	21.9
友だちと対面で話す時間		
増加した	76	3.7
変わらない	1,464	70.4
減少した	539	25.9
外出する回数		
増加した	174	8.4
変わらない	1,456	70
減少した	450	21.6
家族との連絡を取る回数		
増加した	494	23.8
変わらない	1,448	69.7
減少した	137	6.6
友だちとの連絡を取る回数		
増加した	590	28.4
変わらない	1,241	59.7
減少した	248	11.9

出所：総務省
「ネットワークと
国民生活に関
する調査（平成
17年）」より抜粋

◆情報モラル10ヶ条

1. これからは情報が価値の中心。発信者としても受信者としても、情報を見極める目が問われる
2. また、年齢や社会的地位などよりも、情報がその人の評価を決める。自己表現、意思表示の力を磨こう
3. 同時に、相手の気持ちを想像し、尊重する力も
4. 情報のデジタル化は諸刃の剣。デジタルデータの取り扱いには細心の注意が必要
5. 特に、人の情報（個人情報、著作物）を扱うときには慎重に
6. また、一度、ネットワークにアップされたものは、永遠に回収されないことを覚えておこう
7. 未知の人との出会いは刺激的だが、当然、それだけリスクも高い
8. また、ネットワークでのコミュニケーションは、壊れやすいことも覚えておこう
9. 特に電子メールは便利で手軽なメディアだが、その分、コミュニケーションが「雑」になりがち
10. たまには会って話そう